

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																
専門学校 ヒコ・みづの ジュエリーカレッジ大阪	平成20年2月6日	水野 倫理	〒550-0014 大阪府大阪市西区北堀江2-14-3 (電話) 06-6537-4333																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																
学校法人 水野学園	昭和58年4月1日	水野 孝彦	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-29-2 (電話) 03-3499-0350																
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士														
文化・教養	ジュエリー専門課程	ジュエリー研究科 クリエイティブジュエリーコース		平成21年文部科学省 告示第21号	—														
学科の目的	ジュエリー研究科は、ジュエリー・アクセサリ業界において、商品開発(企画・デザイン・製作)ならびに商品販売、および関連する商品知識を持ち、企業で活躍する人材または起業する人材を育成することを目的とする。																		
認定年月日	平成28年2月19日																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技												
3年	昼	3252	36	120	3492		時間												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数														
90人	81人	33人	3人	3人	6人														
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価基準は、90点以上をA、80点以上90点未満をB、70点以上80点未満をC、60点以上70点未満をD、59点以下はF(不可)とする。また評価には値しないが習得レベルに達したと判断された場合はPとする。 成績評価は、課題物評価、試験等により行う。														
長期休み	■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月20日～1月10日 ■春季:4月1日～4月14日		卒業・進級条件		学校長および教職員による卒業・進級判定会議において認定されること。以下の①～④を総合的に判断して認定する。 ①課題物評価 ②出席率 ③授業態度 ④成績・学費を完納していること。														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・メールでの連絡、担任面談、自宅訪問、保護者連絡 など		課外活動		■課外活動の種類 国内外コンテスト参加、学園祭、海外研修旅行 など ■サークル活動: 有														
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) (株)今与、(有)アトリエアルほか ■就職指導内容 進路希望調査、就職ガイダンス、ビジネスマナー・身だしなみ講座、業界研究、ポートフォリオ制作指導、履歴書添削、エントリーシート添削、模擬面接、学内企業説明会、企業見学会、学生企業マッチングイベント など ■卒業者数 : 14 人 ■就職希望者数 : 12 人 ■就職者数 : 12 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 86 % ■その他 ・アルバイト 1名 ・作家活動 1名 (平成30年度卒業生に関する 令和1年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貴金属装身具技能 検定2級</td> <td>②</td> <td>13人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>貴金属装身具技能 検定3級</td> <td>②</td> <td>14人</td> <td>12人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 上記資格は、本校在学期間を実務経験と認定されているため、在学中に受験できる。			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	貴金属装身具技能 検定2級	②	13人	1人	貴金属装身具技能 検定3級	②	14人	12人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
貴金属装身具技能 検定2級	②	13人	1人																
貴金属装身具技能 検定3級	②	14人	12人																
中途退学の現状	■中途退学者 9名 平成30年4月1日時点において、在学者68名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者59名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 経済上の理由、健康上の理由、履修上の理由 など ■中退防止・中退者支援のための取組 担任制、出席状況・課題提出状況を書いた保護者通知の発送(年2回)、学校長メールアドレスの全学生公開、専門医によるカウンセリング、学生相談、個人面談 など		■中退率 13.2 %																
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 「3年次学費減免制度」「新入生奨学金制度」「再進学奨励制度」「教育ローン補助制度」「親族奨学金制度」「留学生奨学金制度」 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																		
当該学科のホームページURL	https://hiko-osaka.jp/																		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ジュエリー・アクセサリ業界において、商品開発(企画・デザイン・製作)ならびに商品販売、および関連する商品知識を持った人材を育成するために、同業界の企業と連携して以下の①～④を踏まえた教育課程の編成を行う。具体的には、新たな科目の設定、既存科目の内容・教育手法の改善、教材の開発、ジュエリーデザイナー、製作者、販売スペシャリストとして必要となる知識や技術など実践的かつ専門的な職業教育の実施に向けた協議・検討することを基本方針とする。

- ①新商品企画に関するマーケットリサーチや商品開発力の育成
- ②各種PCソフトや3DCADデザイン技術を含めた、商品デザイン力の育成
- ③オーダーメイドから量産までに対応する商品製作の技術力の育成
- ④商品の販売に関わる流通や店舗企画力、顧客対応力の育成と、関連する商品知識の習得

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、本学設置コースに該当する各業界において、その専門知識を持った人材を育成するために、各業界企業等と教育課程の編成や授業内容・方法、教材等について協議・検討を行う委員会であり、全学科合同で開催している。

委員会は、学校側から学校長・教育部長・学科責任者等、産業界からは各業界企業および業界団体によって委員が構成され、学校長に直結する諮問委員会として位置づけられる。

委員会でもとめられた意見は、学科の教育改善に優先的に反映されるべきものであるが、実習環境や教育インフラ(人的要素・執行予算等)といった経営資源の観点を考慮し、最終的には学校長または経営会議(本学校法人運営会議)に諮り決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
山内 秀夫 様	大阪ジュエリー工芸協同組合 副理事長	平成31年4月1日～令和3年3月31日	①
藤本 久幸 様	藤本商店 代表	平成31年4月1日～令和3年3月31日	③
松藤 茂 様	株式会社ミノル 代表取締役社長	平成31年4月1日～令和3年3月31日	③
佐本 也寿子 様	ルージュブラン有限会社 代表取締役	平成31年4月1日～令和3年3月31日	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年8月29日(水) 13時～15時30分

第2回 平成31年2月20日(水) 13時～15時

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

対象授業科目「デザイン造形実習Ⅱ-6(ブライダルセットジュエリー)」の科目において学生らしい新しい発想をさらに発展させてほしいとのご意見があった。これを受け、本年度の授業ではアイデア提案の時間を増やし、学生自身が自分の考えを伝え客観的な評価を受けられるようクラス内でのデザイン発表の機会を設けた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

多様化するジュエリーマーケットの現状を把握し、業界において即戦力をもった人材を育成するために、連携する企業より商品の企画から製品化までの流れを享受ならびに学生作品の評価を受けることを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・企業側が求めている人材育成を見据えたテーマの提示とテーマ解説
- ・ブライダルジュエリーマーケットの現状についての講義
- ・学生デザインへのアドバイス
- ・完成作品への総評

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
デザイン造形実習Ⅱ-6(ブライダルセットジュエリー)	セットジュエリーのデザイン、ジュエリーブランドの研究及びショップをリサーチし、レポートを作成。	株式会社ヤスエイ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

- ・別途定められている「学校法人水野学園 教員研修規定」に基づき、定期的かつ組織的に研修を実施している。
- ・実務に関する知識、技術、技能などの向上のため、同業界から各職種の専門家による実践的技術・知識の研修を規定に則して計画的に実施する。
- ・指導力の習得・向上のため、人材開発や教育指導力の教育専門機関による研修を規定に則して計画的に実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「プロダクトデザインセミナー」(連携企業等:カリエグチデザイン)

期間:平成30年9月10日(月) 対象:本校ジュエリーコース全教員

内容:海外から見た日本のデザインについてなど、モノづくりに対する姿勢やこだわり、経験やノウハウを教授いただき、分野は異なるがジュエリーデザイン及び制作のヒントを学んだ。

研修名「2019春夏織研レディストレンドセミナー」(連携企業等:株式会社織研新聞社)

期間:平成30年10月26日(金) 対象:本校ジュエリーコースデザイン担当教員

内容:最新のトレンドを学び、ジュエリーデザインの指導に活かす。

研修名「ファッションデザインを通じたクリエイションの現場」(連携企業等:RBXCO(アールビーティー))

期間:平成31年2月8日(金) 対象:本校ジュエリーコース全教員

内容:ブランドの経営及び伝統工芸との融合や土地の風土から考えたデザインのノウハウについて学んだ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「学級集団アセスメント」(連携企業等:株式会社 図書文化社)

期間:平成30年6月25日(月) 対象:本校全教員

内容:同社のアンケート「hyper-QU」を本校学生に実施し、その結果を用いてアセスメントを実施。学生個々の適性を共有し、それぞれの指導方針を確認した。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ものづくりを伝えるデザイン」(連携企業等:トランクデザイン株式会社)

期間:平成31年4月16日(火) 対象:本校ジュエリーコース全教員

内容:作って終わりではなく、多くの人々にその魅力を伝えていく大切さを学ぶ。

研修名「デザインプロジェクトセミナー」(連携企業等:七宝山 大福院 三津寺)

期間:令和1年6月25日(火) 対象:本校ジュエリーコース全教員

内容:デザインプロジェクト「お守り」の参考セミナーとして企画。仏教とデザインの関わりについて学ぶ。

研修名「2020春夏織研レディストレンドセミナー」(連携企業等:株式会社織研新聞社)

期間:令和1年10月29日(火) 対象:本校ジュエリーコースデザイン担当教員

内容:最新のトレンドを学び、ジュエリーデザインの指導に活かす。

研修名:「大阪造幣局研修」(連携企業等:独立行政法人 造幣局)

期間:令和1年11月26日(火) 対象:本校全教員

内容:独立行政法人 造幣局によるセミナー及び技術研修。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「インストラクション研修」(連携企業等:株式会社ビーコンラーニングサービス)

期間:令和2年3月18日(水) 対象:本校全教員

内容:全教員を対象にインストラクションの在り方を見直し、実習・実演を通して、互いの指導力向上を目指す。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校では、各専攻分野の関連企業、関連団体、ならびに本校の関係者を評価委員として、学校関係者評価委員会を組織する。同委員会では、本校自己点検・自己評価報告書に基づき、学校の運営状況や当該学科の教育状況、進路状況、学校全体の設備や運営状況などに関する自己評価結果を報告し、各委員より自己評価結果の評価を受け、自己評価結果の妥当性・客観性・透明性を高めるとともに当該学科への理解促進や連携協力による今後の運営や教育の改善等を図ることを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか/学校の将来構想を抱いているか
(2) 学校運営	教育理念・目的等に沿った運営方針を定めているか/中長期的な事業計画を定めているか/運営組織や意思決定機能は明確化されているか、また有効に機能しているか/人事・給与に関する規定等は整備されているか/情報システム化等による業務効率化が図られているか
(3) 教育活動	各コースのカリキュラムは目標が設定されているか、また体系的に編成されているか/教育方法は適正か、また授業評価の実施・評価体制はあるか/育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか/教員組織体制が確立しているか、また教員間の連携・協力体制を構築しているか/成績評価や進級・卒業認定の基準は明確になっているか/資格取得の指導体制はあるか
(4) 学修成果	就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか/資格取得率の向上が図られているか/在校生・卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

(5) 学生支援	就職・進学指導に関する体制は整備されているか／中途退学者が継続して学びたい場合の支援体制、または代替えコースが設置されているか／学生相談に関する体制は整備されているか／学生の経済的側面に対する支援体制が整備されているか／学生の健康管理を担う組織体制が整備されているか／保護者と適切に連携しているか／卒業生への支援体制はあるか
(6) 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか／学外学習やインターンシップなどの教育体制を整備しているか／防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動は、適正に行われているか／入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか／学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか／予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか／財務について会計監査が適正におこなわれているか／財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	関係法令・設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか、また個人情報保護に関して十分な対策が練られているか／自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか／学校関係者評価委員会を実施しその結果を公開しているか／教育情報の公開は適正に行われているか
(10) 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか／学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
(11) 国際交流	留学生の受入れ・在籍管理等において適切な管理体制が整備されているか／グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みが行われているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

項目全体としては一定の評価が得られた。

「項目3教育活動 9」において
授業評価アンケートに関して学生からどんな意見があったか興味があるとのことがあり、学生意見から抜粋して答申した。

「項目4学習成果15」において
国家技能検定3級不合格者へのフォローに関してご意見があった。
これに関して、授業内で担任による個別面談を実施し、次年度に再度受験を促すなど個々の学生に応じて対応を行った。

「項目4学修成果14」において
早期離職に関して相談窓口を設けるなど対応してほしい。また事前に就業に関するレクチャーを行ってほしいとのご意見があり、こちらに関しては就職ガイダンス時に「新入社員の心得」を説明し、学生と社会人の違いについて学生に考えさせる機会を設けた。

「項目6教育環境26」において
防災備蓄に関して、国は5～7日分の非常備蓄を推奨している。さらに増備してほしいとのご意見があった。
今年度から学生が納付するその他学納金に「災害備品費」の項目を新たに増やし予算を確保。
防災備蓄品のさらなる充実に努めている。

「項目7学生の募集と受け入れ」において
留学生が増えているが日本語力のサポート体制はどのような感じかとご質問いただいた。
こちらに関しては2018年度より留学生を対象に授業終了後に日本語授業の時間を設けて日本語を学ばせている。

「項目7学生の募集と受け入れ27」において
募集の際学生の質の見極めはできているかとのご質問があった。
こちらに関しては面接時のチェック項目マニュアルを見直し、学生の質の向上に取り組んでいる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
藤本 久幸 様	大阪ジュエリー工芸協同組合 理事長	平成31年4月1日～令和3年3月31日	企業等委員
山内 秀夫 様	大阪ジュエリー工芸協同組合 副理事長	平成31年4月1日～令和3年3月31日	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: https://www.hiko-osaka.jp/about_info

公表時期: 令和1年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育理念をはじめ、育成人材像、当該学科の教育内容などに加え、施設設備、財務状況、学校組織図などの運営内容についても本学ホームページや学校案内などの冊子に掲載する。また、学生の教育成果として、毎年展示会や発表会を実施する。

これらを実施するにあたり、来場者を促す取り組みとして、業界各企業団体、在校生や保護者、入学希望者、卒業生など、関係者の理解を深め連携および協力の促進に資するため、積極的に情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育目的／校長名／所在地／連絡先／沿革・歴史／教育理念
(2) 各学科等の教育	入学者に関する事項(出願条件、入学者数、卒業・成績評価基準等)／カリキュラム／進級・卒業の要件等／資格・検定試験合格実績／卒業後の進路
(3) 教職員	教職員数／教職員の組織／教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況／実習・実技等の取組状況／就職支援等への取り組み状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況／課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い／活用できる経済的支援措置
(8) 学校の財務	学校財務の状況等
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果／評価結果を踏まえた改善方策
(10) 国際連携の状況	—
(11) その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: https://www.hiko-osaka.jp/about_info

授業科目等の概要

(ジュエリー専門課程ジュエリーデザイン科クリエイティブジュエリーコース)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			メイキング基礎実習 I-1 (平打ちリング制作)	平打ちリングの制作を通し、リングの基本的な制作プロセスと地金加工工具の取扱い方法を学ぶ	1前	40				○	○		○		
○			メイキング基礎実習 I-2 (甲丸リング)	甲丸リングの制作を通し、リングの基本的な制作プロセスを学ぶ	1前	32				○	○		○		
○			メイキング基礎実習 I-3 (WAXリング原型)	ワックス素材を使用したリングの基本的な制作プロセスとWAX加工工具の取り扱い方法を学ぶ	1前	32				○	○		○		
○			メイキング基礎実習 I-4 (ソリテールリング/ペンダント)	オーバルカボションの石を使用した覆輪(フクリン)石座のソリテールリングとラウンドGZを使用し4本爪留め石座のペンダントトップを制作	1前	84				○	○		○		
○			メイキング基礎実習 I-5 (WAX模刻)	モチーフの形を観察し、実寸通りの形に削りだすことで造形感覚を学ぶ	1前	32				○	○		○		
○			メイキング基礎実習 I-6 (ロケットペンダント)	ヒンジ金具の構造やパイプ、箱形状といった基礎的形態を用いたロケットペンダントの制作	1後	60				○	○		○		
○			メイキング造形実習 I-1 (ブローチ)	透かした銀板をカシメ技法にて重ね合わせたオーバーレイ技法と、既製のブローチ金具を用いた制作	1前	72				○	○		○		
○			メイキング造形実習 I-2 (立体造形研究)	指定のテーマの立体造形の研究を行い、それをもとに与えられた素材でジュエリーとしての立体物制作	1前	72				○	○		○		
○			メイキング造形実習 I-3 (ペンダント)	粘土等で模型、WAXにて原型を制作することで立体造形を学ぶ	1後	64				○	○		○		
○			メイキング造形実習 I-4 (リサーチプロジェクト)	グループワークでターゲットをリサーチし、そのターゲットに向けたジュエリー制作	1後	96				○	○		○		
○			メイキング造形実習 I-5 (ジュエリーコンペティション)	一年間で学んだ技術や技法を使ったオリジナルデザインリング制作	1後	##				○	○		○		

○		デザイン基礎実習 I-1 (製図の基礎)	ジュエリー独特の立体表現を理解し、様々なデザインリングの表現方法を学習する。	1 前	48					○	○			○		
○		デザイン基礎実習 I-2 (製図の基礎)	透視図法の基本を習得し、ジュエリーレンダリングの基礎を学習する。	1 前	24					○	○			○		
○		デザイン基礎実習 I-3 (製図の基礎)	透視図法を応用し、ジュエリーレンダリングにおける基礎とその表現方法を学習する。	1 後	24					○	○			○		
○		デザイン基礎実習 I-4 (製図の基礎)	リングの構造をふまえた表現方法と宝石の表現等を学習する。	1 後	24					○	○			○		
○		デザイン造型実習 I-1 (デザイントレーニング1)	具象物をモチーフにし、ジュエリーにおけるデザイン展開の方法や、PCを使用しての製図表現を学習する。	1 前	40					○	○			○		
○		デザイン造型実習 I-2 (デザイントレーニング2)	トレンドを分析し、ターゲットに向けたジュエリーデザインを提案する。	1 後	40					○	○			○		
○		デザイン造型実習 I-3 (ポートフォリオ)	プレゼンボードの制作など、ポートフォリオを作成するための基礎を学習する。	1 後	48					○	○			○		
○		宝石学 I (宝石の基礎知識)	宝石の基礎知識。硬度や輝きなどの宝石に関係する基礎的な知識、宝石を種類別にそれぞれの知識について学習する。	1 前	36		○				○				○	
○		コンピューター演習 I-1 (ライノセラスによるCADソフト実習)	CADソフトの基本的な操作と、出力した立体造形物の制作工程の基礎を学習する。	1 通	80			○	△	○					○	
○		基礎知識テスト	基礎的なジュエリーの制作・デザイン・宝石・ビジネスに関わる知識を学習する。	1 後	12					○	○			○		
○		学外研修	ジュエリー・宝石関連等の販売会、美術館等の見学または参加を通じて、デザイン・制作知識および生産・販売等の業界知識について学習する。	1 前	40					○			○	○		
○		特別セミナー	本学創立の歴史や学園の遍歴を通してその学園理念を学習する。	1 後	4					○	○			○		
	○	自主制作/自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	1 通	##					○	○			○		

○		メーキング基礎実習Ⅱ-1 (工具制作、すり出し石座)	宝飾工具の制作、ヤスリによるすり出し石座制作	2前	72					○	○		○				
○		メーキング基礎実習Ⅱ-2 (パヴェsetting)	パヴェセッティングによる石留め、ペンダント制作	2前	72					○	○		○				
○		メーキング基礎実習Ⅱ-3 (プラチナペンダント)	プラチナによるワイヤーセッティングペンダント制作	2前	48					○	○		○				
○		メーキング基礎実習Ⅱ-4 (Engagement Ring)	ハイグレードリング、エメラルドカット及びマーキスカットの石座の制作	2通	##					○	○		○				
○		メーキング造形実習Ⅱ-1 (洋彫りリング)	洋彫り技法の習得及びリング成形	2前	96					○	○		○				
○		メーキング造型実習Ⅱ-2 (デザインプロジェクト・お守り)	チャーム・お守りのリサーチ、作品制作のプレゼンテーション	2前	64					○	○		○				
○		メーキング造形実習Ⅱ-3 (デザインプロジェクト・商品企画)	商品企画・開発のアイデア、作品制作プレゼンテーション	2後	96					○	○		○				
○		メーキング造型実習Ⅱ-4 (テーマジュエリー)	K18カラーゴールド、石留めを用いたジュエリー制作	2後	##					○	○		○				
○		デザイン造形実習Ⅱ-1 (ドローイングトレーニング)	メレの描き方、取り巻きリングのデザインを学習する。	2前	32					○	○		○				
○		デザイン造形実習Ⅱ-2 (ブライダルジュエリー企画)	ブライダルに関する市場調査及び新商品の企画提案をする。	2前	32					○	○		○				
○		デザイン造形実習Ⅱ-3 (リフォームジュエリー)	オーダーメイドジュエリーのデザインを、ロールプレイング通じて学習する。	2前	40					○	○		○				
○		デザイン造形実習Ⅱ-4 (コンペティション)	外部ジュエリーデザインコンテスト出品する。	2前	32					○	○		○				
○		デザイン造形実習Ⅱ-5 (プレゼンテーション)	プレゼンの為の企画書作成方法を学習する。	2後	52					○	○		○				
○		デザイン造形実習Ⅱ-6 (ブライダルジュエリーデザイン)	セットジュエリーのデザイン、ジュエリーブランドの研究及びショップをリサーチし、レポートを作成。	2後	60					○	○		○				○

○		コンピューター演習	PCを用いて3Dソフトを操作し、デザイン及びデータ作成方法を学習する。	2通	40				○	△	○							○
○		学外研修	ジュエリー・宝石関連等の販売会・美術館等の見学または参加を通じて、デザイン・制作知識および販売等の業界知識について学習する。	2前	20					○			○	○				
○		特別セミナー	外部から講師を招聘し、専門分野における最新の情報・知識を学習する。	2後	4					○	○							○
		○ 自主制作/自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	2通	##						○	○						○
○		メイキング基礎実習Ⅲ-1 (洋彫り)	洋彫りタガネを用いて彫り技法による模様彫り印台リングを制作する。	3前	64						○	○						○
○		メイキング造形実習Ⅲ-1 (線象嵌カフス)	線象嵌、色金、木目金、粒金フィリグリーを学ぶ。	3前	96						○	○						○
○		メイキング造形実習Ⅲ-2 (テーマジュエリー)	七宝、色金によるオリジナルジュエリーを制作。	3前	##						○	○						○
○		メイキング造形実習Ⅲ-3 (デザインプロジェクト工芸)	伝統工芸をリサーチ及び考察し、ジュエリーを制作。	3前	64						○	○						○
○		メイキング造形実習Ⅲ-4 (デザインプロジェクト LOCAL)	地域発信型ジュエリーの制作。	3後	96						○	○						○
○		卒業制作	集大成の作品制作及び展示会開催。	3後	##						○	○						○
○		デザイン造形実習Ⅲ-1 (コンペティション)	外部ジュエリーコンペティション出品するためのデザイン画を作成。	3前	32						○	○						○
○		デザイン造形実習Ⅲ-2 (ペーパージュエリー)	ペーパーを使用したジュエリーのデザインを学ぶ。	3前	32						○	○						○
○		デザイン造形実習Ⅲ-3 (デジタルファブ리케이션ジュエリー)	レーザーカッターを使用したジュエリーのデザインを学ぶ。	3後	44						○	○						○
○		デザイン造形実習Ⅲ-4 (デザインプロジェクト工芸)	伝統工芸をリサーチ及び考察し、ジュエリーをデザインする。	3後	44						○	○						○
○		デザイン造形実習Ⅲ-5 (ジュエリーコレクション)	マーケティングリサーチをした上で、パールジュエリーコレクションをデザインする。	3後	96						○	○						○

○		コンピューター演習Ⅲ-1 (モデリング・原型制作)	3D-CADソフトを用いて様々なジュエリーのモデリングを実習し原型制作を行い、3D-CADの操作技術を深める。	3通	40				△	○	○				○
○		卒業テスト	ジュエリーの制作・デザイン・宝石・ビジネスに関わる知識を試験を通して確認する。	3後	12					○	○				○
○		宝石学	宝石の硬度や輝きなどの知識、種類別にそれぞれの知識について学習する。	3後	16					○		○	○		
○		特別セミナー	本学創立の歴史や学園の遍歴を通してその学園理念を学習する。	3後	4					○	○				○
	○	自主制作/自由制作	習得した技術をさらに向上させるため、自主的に研究・学習する。	3通	##					○	○				○
合計			科目	3648		単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件＝卒業までに必要な履修科目をすべて履修していること。 必修科目のすべてを履修していること。自由選択科目は対象外。 履修方法＝課題物評価では『F』以外、試験では70点以上で履修となる。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	26週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。